

令和6年度 学校経営方針

(1) 本校の使命

本校は、日本国憲法及び教育基本法、学校教育法の精神にのっとり、知的障害のある児童生徒に対して自立と社会参加のために必要な知識、技能及び態度の育成を図ることを目的とする特別支援学校である。併せて、附属学校として次に挙げる使命をもっている。

- 教育学部と一体になり、知的障害のある児童生徒に対する教育の在り方について、長崎県のモデル校として、実証的・理論的な研究を行い、その成果を広く発信することで、特別支援教育の充実・発展に貢献する。
- 教育学部の計画に沿って、理論と実践が往還した教育実地研究の指導にあたり、特別支援学校等の教員をめざす学生の指導・育成に努める。
- 教育学部と連携して、特別な教育的支援を必要とする幼児・児童生徒が在籍する幼保・小中学校・高等学校等に対する支援や教職員を対象とした研修を積極的に推進する。

(2) 校訓

「生きる喜び」

変化が激しく予測困難な時代において、自立し社会に参加・貢献するには、様々な学習活動や生活体験を通して、自分の内面や外界に「生きる喜び」をつくるのが大切である。児童生徒は、物事に対して知的好奇心や興味関心を抱き、主体的に課題を解決する経験を通して、成就感や喜びを味わう。また、社会に広く向き合い、多様な他者の考えを尊重して共に協働することで、よりよい人間関係を築くとともに他者を思いやる心を育てていく。このようにして「生きる喜び」を児童生徒一人一人が作り、それを原動力として意欲的な生活を送ることで、自己実現に向けて精一杯取り組んでほしい。

「生きる力」

変化が激しく予測困難な時代において、自分のよさや可能性を肯定的に捉え、個々の特性と発達に即した「生きる力」を身に付けることが必要である。児童生徒は、様々な学習活動や生活体験を通して、自己を育みながら、生きるために必要な資質・能力を身に付けていく。さらに、様々な課題に対して、ものの見方・考え方を働かせて自己選択・自己決定するとともに、自分の考えや行動を客観的に理解する力を身に付けていく。このようにして「生きる力」を児童生徒一人一人が身に付け、それを活かして自分の生き方を自己選択・自己決定しながら生涯を通じて豊かな生活を送ってほしい。

(3) 学校教育目標

- 生きるために必要な資質・能力を育成するとともに児童生徒一人一人の自己の形成（キャリア発達）を促すことで、生涯を通じて社会に参加・貢献して豊かな生活を送ろうとする人間の育成を目指す。

(4) 目指す学校像 「あいうえおの学校」

- あ 明日が楽しい学校（通いたい学校・通わせたい学校・通ってよかった学校）
- い 命を大切にする学校（安心安全な学校・人権を尊重する学校）
- う うれしい自分・できる自分に出会える学校（キャリア発達を促す学校）
- え 笑顔とあいさつで明るい学校（人の輪を大切にする明るい学校）
- お おもしろい授業で学べる学校（深い学びや協働的な学びを追求する学校）

(5) 目指す児童生徒像

目指す児童生徒像	目指す児童生徒像の具体的な姿
健やかにたくましく生きる子	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの成長を受け入れ、心身ともに健やかな子 ○生活習慣を確立し、自立した生活を送る子 ○自分を大切にし、安全に気を付けながら生活する子
生き生きと学ぶ子	<ul style="list-style-type: none"> ○物事に興味関心を抱き、意欲的に取り組む子 ○ものの見方や考え方を働かせて、主体的に学び、生活に生かす子 ○決まりや社会規範を理解し、自分で判断し行動する子
生きがいをもち努力する子	<ul style="list-style-type: none"> ○憧れや希望を抱き、チャレンジする子 ○自分のことを理解し、自分のよさを発揮しようとする子 ○生き生きと働いたり余暇を楽しんだりする子
思いをもって決められる子	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えをもてる子 ○自分の思いや考えを周りに伝えることができる子 ○様々な人々との関わりの中で、自分の思いや考えを調整できる子
思いやりのある子	<ul style="list-style-type: none"> ○他者の存在を尊重し、よりよい人間関係を築く子 ○他者と共に協働し、学びあう子 ○社会に向き合い豊かな感性を磨く子

(6) 求める教員像

情熱のある教員 (心)	信頼される教員 (信)	学びを深める教員 (深)
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の瞳を輝かせ、心を温かくする教員 ○児童生徒とともに本気になって夢を追いかける教員 ○冷静に自身を振り返り、確かな教育観を築いていく教員 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感を高める中で児童生徒の良さに気付くことができる教員 ○児童生徒や保護者、地域から信頼される教員 ○思考力や判断力、表現力を高め、仲間と力を合わせて課題解決できる教員 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修テーマを掲げ、実践的指導力の向上に努める教員 ○よりよい授業を追求し、授業改善に励む教員 ○地域の特別支援教育の充実や発展に貢献できる教員

(7) 学校経営目標

- ① 社会に開かれた教育課程を編成し、PDCA サイクルにより効果的に運用する。
- ② 児童生徒の教育的ニーズに応じた授業実践とともに指導力向上のための研修に取り組む。
- ③ 12年間を見通した自己の形成（キャリア発達）を促し、卒業後の進路実現を支援する。
- ④ 知的障害教育に関する実証的・理論的研究に取り組む。
- ⑤ 児童生徒が主体となり光輝く教育活動を創造し実践する。
- ⑥ 児童生徒の健康管理・安心安全な教育環境整備・組織的危機管理対応に常時から取り組む。
- ⑦ 実習生が教職の基礎・基本を学び、教職の良さに気づくことができるような教育実習を推進する。
- ⑧ 校内支援の推進とともに、特別支援教育のセンター的機能を発揮する。
- ⑨ 本校教育活動への理解啓発や学びの場としての本校選択につながるような情報発信に取り組む。
- ⑩ 附属学校教員として児童生徒・保護者・地域に信頼される教職員集団であり続ける。
- ⑪ 働きやすい職場づくりを推進する。

(8) 今年度の努力目標

経営目標①について

- ・これまでの運用で明らかになった教育課程の課題について協議・改善する。
- ・今年度から始める新たな取組について、成果と課題を明らかにしながらより良い取組を進める。

経営目標②について

- ・「学びに向かう力・人間性等」の目標設定や協働学習を仕組んだ授業を実践し研究する。
- ・大学教員と協働して知的障害教育における自立活動の指導についての研修を推進する。
- ・特別支援教育や各教科の指導力向上のために、大学教員との関係づくりを推進する。
- ・ICT 機器の効果的な利活用を推進する。

経営目標③について

- ・キャリア教育全体計画やセルフサポートブックなどのツールを有効活用し、児童生徒一人一人のウェルビーイングの実現に向けた教育活動の充実を図る。

経営目標④について

- ・研修主題「生涯をとおして自ら学ぼうとする子供を育てる授業の在り方」について、共同研究者である大学教員と連携した研究を推進して研究成果をまとめ、公開研究発表会で発表する。

経営目標⑤について

- ・児童生徒の発想や思いに基づいた教育活動、児童生徒の主体的な運営を目指した生徒会、集会活動、学校行事を推進する。
- ・附属学校園や居住地校との交流及び共同学習や地域と協働した教育活動を創造・推進する。

経営目標⑥について

- ・児童生徒の健康状態を的確に把握し、関係機関と連携しながら個々に応じた健康管理を推進する。
- ・安全で衛生的な環境整備を図るとともに、事務室と連携して設備面の早めの修理・修繕に努める。
- ・各種訓練後の振り返りを速やかに行うことで防災警備体制の改善を進めるとともに、改善内容を職員へ周知徹底することで職員一人一人の危機管理意識の向上に努める。

経営目標⑦について

- ・一人一人の実習生が自分の良さに気づいたり、自分の強みを発揮したりすることができるような実習指導をより一層推進する。

経営目標⑧について

- ・「個別の教育支援計画」の管理・運用、「セルフサポートブック」の活用推進、保護者への支援など校内支援の充実を図る（校内支援）
- ・支援対象を附属学校園に特化し、大学の教育臨床センターと協働しながら、「個別の教育支援計画」の作成を中心とした支援の充実を図る（地域支援）。

経営目標⑨について

- ・ホームページを随時更新したり SNS を活用したりして、本校教育活動の情報を積極的に発信する。
- ・幼稚園や保育所、認定こども園への広報活動を積極的に推進する。

経営目標⑩について

- ・体罰、不適切な言動「ゼロ」の人権を尊重した教育を徹底する。
- ・服務規律研修の実施や講話研修により、綱紀の保持を徹底する。

経営目標⑪について

- ・計画的な業務遂行、Microsoft Teams や Forms 等を用いた校務処理の推進、定時退庁や計画的な年休取得の推進により、働きやすい職場づくりを推進する。

(9) 各部教育目標

小学部【意欲づくり】	中学部【基盤づくり】	高等部【主体づくり】
○身近な人や物と関わる中で自分に気付き、自分なりに考え、自分から行動しようとする意欲を育てる。	○仲間とともにいろいろなことにチャレンジし、自分の成長を実感することを通して、社会参加の基盤となる力を高める。	○社会を生きる主体として、自分の生き方・在り方を考え、自ら選択・決定する過程を通して、自立的な生活・社会参加を目指す。
・言葉や数などの基礎的・基本的な力を身に付けるとともに、身近なことへの興味関心を広げる。	・日常生活や社会生活で活用できる知識や技能の習得を図るとともに、自ら主体的に学ぼうとする意欲をもつ。	・社会で活躍するために必要な知識や技能を習得し、多様な人々と協働するための表現力を身に付ける。
・友達や教師との関わりを広げ、協力する態度を身に付ける。	・自分のよさに気づき、仲間と協力して、いろいろなことにチャレンジする態度を身に付ける。	・社会のルールやマナーを守り、自分も他の人々も大切にしながら、生きるために主体的な判断力と行動力を身に付ける。
・基本的な生活習慣を身に付けるとともに、元気に体を動かすことを通して、健康で丈夫な体を育む。	・生活習慣を確立し、身体の成長を受け入れながらたくましく生きるための体力や精神力を養う。	・生涯にわたり、健康に生きるための体力と生活習慣を理解し、自己管理する力を高める。